

「農力向上大作戦！耕作放棄地再生大賞」構想



景気の低迷と財政赤字の拡大は、過疎化が進む農山村にも暗い影を落としています。なかでも耕作放棄地は、農業従事者の高齢化や食料需給のグローバル化なども影響して、広がるばかりのようです。一方で、田舎に本当の豊さを求め、1ターンやリターン、都市農山村交流などで、地域の活性化に取り組む団体も目立って増えてきました。もちろんその多くは、田畑の荒廃を防ぐうえでも、重要な役割を担っています。そこで一般社団法人 都市生活者の農力向上委員会では、そんな方々の地道な努力を讃え、そこに日本再生の活路を見出そうと、NPO 法人エコロジー・アーキスケーブとともに、下記のとおり「農力向上大作戦！耕作放棄地再生大賞」キャンペーンを構想する運びとなりました。その農地の多面的な活用法やコミュニティ・デザインの進め方などにも、ヒントを得て頂ければ幸いです。

* 催名：「農力向上大作戦！耕作放棄地再生大賞」キャンペーン
 * 期間：2012年4月～2013年2月
 * 主催：特定非営利活動法人エコロジー・アーキスケーブ／一般社団法人都市生活者の農力向上委員会
 * 協力：特定非営利活動法人えがおつなげて／特定非営利活動法人ビッグウッドカフェ／種まき大作戦
 * 運営委員長：糸長浩司氏（エコロジー・アーキスケーブ代表理事／日本大学生物資源科学部教授）
 * 運営事務局：一般社団法人 都市生活者の農力向上委員会内
 * 主旨：耕作放棄地再生を環境保全活動&コミュニティ・デザインとして評価するキャンペーン

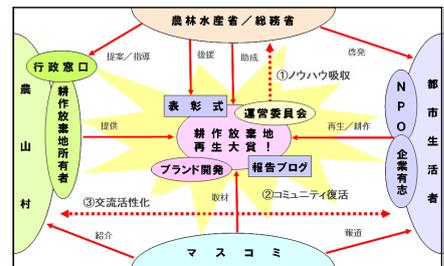
* 段取り：

- 1) 耕作放棄地再生大賞！の運営委員会を確定させる。
- 2) 審査員を選定し、再生大賞！へのノミネート団体を募る。
- 3) 書類&面接審査等を実施し、ノミネート団体を決める。
- 4) CSR担当者／都市生活者向けに再生体験ツアーを開催する。
- 5) CSR担当者がツアーに参加した企業を中心に、協賛を募る。
- 6) 参画団体には、途中経過をブログで報告するよう義務付ける。
- 7) 審査委員は再生過程をコミュニティ・デザインとして評価する。
- 8) 表彰式では、各団体を好評価する賞で、再生活動を讃える。

	11.12	12.02	12.04	12.06	12.08	12.10	12.12	13.02
再生グランプリ 運営委員会結成		●12月4日	●					
再生グランプリ 審査員選定			→					
耕作放棄地再生活動 団体応募締切日			→					
耕作放棄地再生活動 団体応募受付/選考				→				
耕作放棄地再生大賞 表彰団体決定					●12月中旬?			
耕作放棄地再生大賞 表彰団体活動					→	→	→	
グランプリ参加団体 ブログ更新締切				●	●	●		
耕作放棄地再生大賞 参加団体活動審査							→	
耕作放棄地再生大賞 表彰式/卒業式直前								●

* 審査員候補

- ・ 木内孝 氏（株式会社イースクエア会長）
- ・ 高野孟 氏（株式会社インサイダー代表取締役）
- ・ 山崎亮 氏（株式会社 studio-L 代表）
- ・ 古沢広祐 氏（國學院大学教授）
- ・ 大和田順子 氏（一般社団法人人口ハスビジネスアライアンス代表）



* 平勤休農のすすめ

「半農半X」は、農的暮らしとして理想形といえますが、都会には「農」がなく、農山村には「X」がないので、現実に取り組むとなると、実はハードルが高かったりします。一方で、平日は働き、休日は農を楽しむ「平勤休農」なら、誰にでも取り組むことができるのです。都市生活者の農力向上委員会では、この「平勤休農」のムーブメントを「見える化」するため、「耕作放棄地再生大賞！」を思い立ちました。



当構想のお問い合わせ先



一般社団法人 都市生活者の農力向上委員会 <http://www.blog-headline.jp/agriability/>
 耕作放棄地再生大賞！運営委員会事務局 担当：西村 manager@blog-headline.jp